

20/9/25 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議（第33回）
（名古屋市民オンブズマンによるメモ）

10:01

鈴木保存整備室長：始める

佐治所長：出席いただきありがとうございます
今回より近世史 藤井様に構成員として参加
議題5点
来年4月文化庁に向けて丁寧に議論

鈴木室長：出席者紹介
新たな構成員 藤井様

藤井：よろしく
専門 日本近世史
豊臣秀吉集 刊行 8年
文化庁 専門調査会委員 10年余りつとめていた
そちらの立場から
石川県に関わっている 二の丸御殿再建したい
うまくいくかわからない 委員長している
わたしなりに関心を持っている

鈴木室長：高瀬、麓 欠席
オブザーバーの愛知県 急に欠席
事務局紹介 教育委員会、名古屋城総合事務所
議事に入るので、写真ビデオはこれまで
資料の確認

瀬口座長：はじめる
資料の説明をしていただき、構成員から意見を伺う

名古屋城：昨年4月申請
文化庁からの指摘事項は大きく2つ
1) 石垣等遺構に与える影響

2) 現状変更を必要とする理由

・外観総合調査

軽量盛り土 内堀御深井側、仮設栈橋外堀

被熱劣化 割れている

内堀は軽量盛り土 仮設構台、重機、素屋根

石垣面への圧力、撤去時 剥離の可能性 検討中

ア) 内堀内 18 か所調査 報告済み

地中レーダー 11月から着手したい

御深井丸内堀石垣現状把握 実施済み

イ) 御深井丸等地下遺構把握

仮設栈橋 天守礎石展示場所など

文化庁から 天守礎石についても調査したほうがよいとアドバイス

当時の新聞記事 再建した天守から見える位置に

展示場所の排水性能 よい環境とは言えない

全体整備検討会議に諮って決めたい

山砂で基礎→破損の懸念 礎石を避けて基礎を設置したい

この後議題にしたい

ウ) 孕み出しについて

エ) 石垣背面

調査の準備に着手している

今年度中にまとめ、来年度早々に文化庁に提出したい

(2) 現状変更を必要とする理由

木造復元 追加提出を

基本構想をまとめて提出したい

基礎構造の見直しについて盛り込む必要がある

石垣部会と天守閣部会 両部会の調整会議を想定

指摘されていないが、資料1-2 ポーリング調査についてもあげている

欄外 来年度早い段階で天守台石垣保存方針を作成したい

佐治所長から発言

佐治所長：今後のスケジュール

局長からお願い 代読

松雄：本来であれば頭を下げてください

議会開催中 できない

2点

・当面のスケジュールについて

昨年 9 月 指摘事項についてすでに 1 年が過ぎている

真摯に答え、信頼関係 今年度中に有識者合意

来年度早々に

市長が直接文化庁に出向いて手渡したい

タイトなスケジュール 頻繁な有識者会議

心苦しいが、局をあげて万全を尽くしたい

・次年度予算の確保

方向性を導いていただいた

予算の裏付けが極めて重要

新型コロナウイルスの影響 経済のマイナス成長

リーマンショックを上回る経済の落ち込み

確実に予算確保するため、年明け早々の市長査定までに

道筋と経費 信念をもって予算要求したい

さらなるご助言をいただくこともあるかも

以上代読

瀬口：ご意見を

特にないか 着実に進めるしかない

藤井：実情を理解していない 教えて

現状変更を必要とする理由

木造復元 現段階でどの程度進んでいるのか

結論を出すのは難しい

名古屋城：過去基本計画というかたちでまとめている

今精査している

瀬口：理解できないと思う

名古屋城：平成 29 年、30 年度

基本計画 基本構想、図面などまとめた

一定の形 文化庁と相談した

内容について足りない

基本構想のところ 補強・精査して作業している

瀬口：基本設計・実施設計は終わったんですね

名古屋城：基本設計は終わった

瀬口：足りないところは

名古屋城：現天守の評価
木造復元の意義が弱い

瀬口：これまでの資料を渡しては

藤井：もらった

瀬口：屋外作業 コロナを避けるようにすすめて
特になければ次に

10:26

村木：資料2-1

ア 内堀把握 地中レーダー

前回の全体整備検討会議で説明した

石垣部会で議論してと意見があった

石垣部会で2回議論した

スクリーン 黄色の部分 レーダー探査を行った

大天守西側 強く反応した

遺構？攪乱？ 石垣についてどのような影響をあるのか？

計画した調査

緑T字型トレンチ

内堀何か所か多すぎ？掘りすぎではないか

→地下遺構状況把握 万全を期したい

トレンチの幅が狭い

1メートル幅→1.5メートル幅

掘削する面積が増える

資料2-1 下段 注記4つ目

縮小することもあり得る

掘削を始めたうえで、最小限の掘削にとどめる

南北方向先 東西をやるかどうか判断

ピンク色の網 斜めの線が入っているところ 軽量盛り土

地下遺構の状況を把握する必要がある
掘削をいきなり行うのではなく、地下の状況を把握したうえで
石垣部会の審議を経たうえで、こちらで審議

瀬口：ご意見を
前回も出たということ
人力、機械 こと細かくかいたこと
よろしいか

丸山：発掘調査 もうちょっと、もうちょっと
縮小は初めて聞いた
1.5メートル 長さがもう少し延びることはないのか

村木：最大をとっているつもり これがマックス
これを増やさない方針

丸山：現状変更 新たに拡大は、しないといけない
軽量盛り土 発泡スチロール？

名古屋城：切り込み碎石を敷いた上で、発泡スチロールを層状に重ねて
碎石を敷いて鋼板
構台、重機を乗せる

丸山：建設するときの仮
また戻す？

名古屋城：終わったらすべて撤去

小濱：前回 トレンチの計画
すでに掘られている 調査がある
よくわからないが、たくさん掘削して
いままで遺構の発見 可能性 そういったものはあったのか
なかったのか？
ないからトレンチ拡張するのか？

村木：目的大きく2つ

根石状況

堀底状況 現天守閣作るとき、焼失時 攪乱が行われているのでは？

根石調査 おおむね想定的位置

後者 攪乱が見つまっている 心配したほどではない

石垣側から若干離れている

工事に影響を与えるものではないと有識者からいただいている

それ以外の遺構は見つかっていない

今回 確認する

小濱：わかった 根石は成果があったでよいね

瀬口：石垣に関する遺構はどんなもの？

村木：根切の状況が確認できた

瀬口：箇所が多い？面積が多い？

箇所、面積をまとめては

村木：まとめたい

10:38

瀬口：調査の状況をまとめて

御深井丸地下遺構調査

村木：御深井丸地下遺構 文化庁指摘事項cにあたるもの

今日全体整備検討会議にはじめて示す

スクリーン 網の部分

御深井丸

小天守西側1か所

御深井丸 発掘調査を行ったことがない

密度、深さ 仮設の調査

天守台の礎石が展示されているところ

整備計画は別途

現在の調査 礎石を動かさない 75センチ×1.5メートル トレンチ

掘れるところが限られている 均等な

a-i 9か所

5メートルピッチ

遺構の分布状況

小天守西 W

濃尾震災で石垣が崩れている

緑色の丸 ボーリング調査 地下の状況を把握

崩れていないところ 発掘調査

遺構調査を目的していない 分布状況を把握

近世遺構上面まで

はじめて調査する 事前に文献調査 把握する必要がある

名古屋城：資料3-3、3-4

蔵 大筒蔵保管 武器庫として利用

日常的に使われるエリアではない

建物の変遷 それほど多くないと考えられる

図1 建物名称を示している

荷重のかかる部分 発掘調査以外 大きな建物がある

今回の範囲 大きく離れている

様々な変遷があるが省略したい

「御番所」昼夜常勤

7間半 4間ほど

西端 不寝番所 1間×2間

図2 宝暦年間 天守台と石垣積みなおし

仮設的に設けている

仮設の番所が見える 大工小屋などは外れている

遺構 図3 金城温古録 内堀側通路 水道 排水路？

絵図を見る限り建物の変遷は少ない

番所が引っかかってくる、水道の存在が確認できる

現在まで残っている絵図で確認できるもの

記録がないものも想定

瀬口：質問意見

赤羽：資料3-2

A-V 範囲は聞いていたが、

細かい方法 石垣部会では諮っていない

内容は石垣部会で検討したい

D、H、Lなど 歩いてみると、簡易な舗装
舗装 亀裂が長く入っている
御深井丸 石垣の変形 状況が亀裂をよんでいるのでは？
状況を確認できるか？？
2メートル×2メートル こういう方法だけで亀裂の原因が把握できるか疑問
具体的なトレンチの方法は検討させてほしい
西の丸毀損と似ている
絵図を全面的に信頼するのは、気を付けたほうがよい
おっしゃっていたが、江戸時代を通じて、どのようなものがあったか
もう少し調査の方法をポイントポイントにするのか
トレンチ方式にするのかは検討すべき
天守の礎石 最初にそこに置かれた ずっとここに置きたい
隙間隙間を調査したい→あまりに狭すぎて何がわかるのか？
礎石を動かさないということなら仕方ない
調査の仕方を検討すべき
3つ目 北の部分 古墳の石室がある
森川寛一郎 茶人が寄付した
現在の計画からしたらどういう関係になるのか
現在の状況でいけるのか

村木：調査区 以前石垣部会 仮設構台地下遺構把握できていない
文化庁に解体申請をした 文化庁「把握すべき」
はじめて全体整備検討会議に示した
あらためて石垣部会でご議論いただきたい
まんべんなく、全体状況を把握したい
石垣背面亀裂 近世メンバー
どこから亀裂が発生しているか
絵図 御指摘の通り 事前に検討した
「絵図にないから遺構はないだろう」予断はもたないようにしたい
石室 構台の範囲と重なっていない そのままにすると考えている

赤羽：ありがとう

瀬口：絵図によらないというのはどうするのか
赤羽さん、ご説明を

赤羽：どういふことか

瀬口：どうすればよいのか

赤羽：A～V 範囲はよい

グリッドではなく、溝状に掘る方法
建物 グリッドでは見つけにくい
トレンチで設定することもできる
細かい方法は石垣部会で

瀬口：絵図を否定しているわけではない
その他

小濱：小天守西

ボーリング調査 穴径が小さい
地層調査くらい
地下遺構面 どのようにわかるのか

村木：濃尾震災 石垣が崩れた

その後修復して盛っている
地層の状況を確認する
小さな径だが、盛り土、地山が確認できるのでは？

小濱：地層からわかるわけだね

ありがとう

三浦：ボーリング

- ・石垣を見ると、濃尾地震後に積みなおした粗雑な石垣
しいてボーリングする必要はないのでは？
- ・A～V ゆがんで配置している理由

村木：整然と掘りたい

北側 御深井丸 既存のもの 木、電気設備
掘れるところ 現地に即して

三浦：2メートル幅穴を掘る

ここは軍事的、歴史的 あまり利用されていない
遺構面を探す
確実に遺構面 確認できるものか？
西の丸 そうでもない気がする

村木：調査事例がない
立ち合い調査を参考
慎重に掘り下げる

三浦：慎重に掘るのはわかる
本来筋状に掘らないとわからない
脈略がわからない
遺構面で止まるか？打ち抜くのでは？
最大深さ1メートル
遺構面が多分浅い
きわめて懸念がある
ほかの史跡 整備のため面的に掘る
かつての調査のトレンチの跡 傷として残っている
発掘は遺構の破壊である 文化庁調査官が言っている
必要なところだけ掘れ
赤羽先生がおっしゃるように筋状に掘れ
不寝番所 小さい
御番所 筋状に掘らないと
穴を並べて掘るのは現実的ではない
遺構の破壊である 掘りすぎではないか

瀬口：ほかには

丸山：トレンチのほうが効率的ではないか
一つ一つを掘り出して相互比較
人員確保できるか？
石垣部会で検討を トレンチのほうがよいと思う

瀬口：全体の状況をまんべんなく→多すぎ
あたりをつけてやったらどうか
現実的ではないという意見

発掘調査 数が多くて、今回 31 か所 100 平米
遺構の破壊につながるのではないかと意見をまとめた
基礎構造検討

名古屋城：1 時間だったので、休憩よいか

瀬口：20 分まで休憩

11:07

11:16

瀬口：全体整備検討会議で議論し、分科会で意見を聴取することを決定する
3 番の御深井丸調査 意見を踏まえて、
課題 荷重はどれくらいかかるか 調査結果を合わせて
石垣部会で検討していただきたい
その結果を全体整備検討会議に報告
次に基礎構造

荒井：これまでの経緯 説明

図面を映している

天守閣 H27 年度プロポーザル 竹中 跳ね出し工法

左側 現天守閣断面 SRC

右側 技術提案 石垣の中に赤色はね出し加工で荷重を受ける

史実に忠実に木造復元に沿っている

穴蔵石垣、外部石垣を取り外す形で施工

そもそも石垣に赤色 構造躯体を入れる

石垣部会から、「現在の遺構の毀損を前提 認められるものではない」

文化庁 穴蔵石垣 遺構が残っていることを前提に検討を

竹中とともに基礎構造検討中

資料 4

基礎構造考え方

3 つイメージ図

左 消失前

真ん中 現天守閣 ケーソン基礎を設置 鉄筋鉄骨造

被熱で劣化 天守台石垣に荷重をかけない構造

入側部に荷重をかけていない 斜め材 釣り構造

右側 木造復元イメージ

天守台石垣 理想の姿

天守台石垣に荷重をかけられない

(1) 基礎構造の考え方

- ・天守台石垣に荷重をかけない
- ・本質的価値を理解するうえで不可欠な遺跡の保存に十分配慮
- ・遺構の保存を前提としたうえで史実に忠実な復元を行う方針

(2) 入側部の指示方法

左 跳ね出し架構 外周部すべて 見直す

現代工法を穴蔵に入れる

鉄骨付加

木造加工の一部を現代工法に置き換える

例2つ 確定したものではない イメージ案

今後検討を進める

(3) 今後の進め方

有識者に諮って基礎構造を決定する

調整会議を設置して意見をいただくことを想定

麓構成員 基礎構造 調整会議への意見

「石垣部会と天守閣部会が別々に議論していてもかみ合わないと思う。

調整会議のほうが議論ができて、価値観が合わせられる」

基礎構造はもっとも重要な部分。

高度で詳細な検討を重ねる必要

相当な時間が必要

調整会議設置 基礎構造の検討を進めたい

瀬口：意見は

藤井：気になるのは、ケーソン これは大丈夫か

瀬口：大丈夫という報告を受けている

荒井：戦後 60 年たっている 心配はあった

コア抜き 中性化試験をした

ほとんど中性化されていない 大丈夫です

戦後、次の議題 ボーリング調査

ケーソン基礎 維持されている

ケーソン自体の耐久性 支持地盤に乗ってる

今後も沈下しない？ボーリング調査を行って、ケーソンが使えるか確認
ケーソンのコンクリート劣化は問題がない

小濱：技術提案時の基礎構造 跳ね出し

見直し ほかの工法に変える

要因 穴蔵石垣の件

当初 穴蔵石垣 解体して積みなおさないといけない

今回見直し 基礎構造 内側に構造体を入れて

穴蔵石垣を触らないという趣旨か

荒井：穴蔵石垣

跳ね出し架構 いったん穴蔵石垣をすべて取り外す

石垣本体に構造体を埋める 見直す

穴蔵石垣 今残っているものが戦後積みなおした 確認した

どうするか 積みなおしするか今後検討しないとイケない

基礎構造考え方 戦後新しく積まれた石垣の扱い

どういう基礎構造にするか

検討案 今現在の漫画を上げている 確定しているものではない

ときどき文化庁に報告しながら

小濱：穴蔵石垣をどうするか

ほかの工法を取る

当初の史実に忠実な木造復元→基礎木造を変えないといけない

「忠実な木造復元」許容されるのか

荒井：この事業「史実に忠実な木造復元」

遺構を保護することが大前提

そのうえで、史実に忠実に

遺構を保護しないと、木造復元の実現につながらない

できるだけ史実に忠実な木造復元 実現するように

遺構保護、史実に忠実な復元

観覧者の安全確保 防火、耐震

調整会議で様々な意見をいただいて

小濱：遺構保護が最優先

多少木造軸組みが変わってもやむを得ないと考えているということですね

荒井：難しいところ

瀬口：ほか

赤羽：資料4を示した理由は？

状況報告？今後の進め方？ 全体会議で決める？

一体何のために提示したのか？

荒井：説明が不十分で申し訳ない

すべて含んでいる

基礎構造 考え方 見直していく

有識者会議 親会議、部会 正式に議論をしていただく 至っていない

今後詳細に検討する

親会議に、今後議論することの報告

(1)に基づくという説明

今後調整会議を行う

昨年度3月位置づけ 複数の部会にまたがる 調整会議を設置する

親会議で位置づけた

その部分の報告

そのように進めることへの意見を求めたい

瀬口：ほかには

三浦：(2)より前、前提条件

委員会で資料 穴蔵石垣 天守が燃えたとき非常に傷んだ

すべての石を取り換えて、根石以外は新品

資料で明らか

根石を除いて遺構ではないと思っている

今日の資料模式図 認識が違うのではないか

真ん中 現天守 黒丸三つ目 もう少しわかりやすい

はるかに重い鉄筋 石垣に載せたら崩れる

荷重をかけない釣り構造

それがないと、被熱

「コンクリートだから」

木造なら関係ない

誤解に基づいて

右 石垣に荷重をかけられない 理由が間違っている

軽い木造 かけてかけられないことはない

理由 石垣を保存するためではない

現在の石垣 火災で劣化

穴蔵 強度が低下している

ドリルで割った後

算木積みになっていない

使っている石短い 石垣技術が低下している

将来起こる東南海地震 現在の石垣は上のほうが崩壊

木造天守の中の人に影響

多大なる人的被害

石垣に荷重をかけられない→大地震 石垣がくずれないように

前提事実が違う

(1)「文化財」が気に食わない

江戸時代は文化財

昭和の石垣は間違っている 強度が低下

本質的価値

新たに近代復元された石垣 当初の遺構ではない

本質的価値 昭和戦後新築 間違っている→改める

直すべき

「文化財である」認めるが、絶対に手を付けてはいけない ではない

昭和戦後 間違った石垣 そのままとは言っていない

表現がおかしい 石垣が崩壊しても崩れない構造とする

二つ目黒丸 文化庁基準 十分な配慮

文化財として本質的な価値がない新品→本来の形に戻す

修正しては、というのが私の意見

荒井：勉強になる

今後議論 検討を進める

修正しながら有識者に諮る まとめる

ありがとう

瀬口：ほかには

赤羽委員は

赤羽：さっき言った

瀬口：よろしいか

基本的認識がちょっと問題

再度全体にかけてはどうかと思うがどうか

藤井：指摘その通り

石蔵 史跡指定 現状か？

三浦：戦前

藤井：指定の時、位置づけているのなら解除、変える

手続きとしては必要

二つ目 復元に関する基準

名古屋城 現状あるのではなく、全くないもの 近世、古代のもの

復元する場合は、基本的価値を理解するためのものを作れ

名古屋城に適用するのは配慮

次回に調整 提案しては

瀬口：特別史跡 どうなっていたか調べて次回に再度出して

次ボーリング調査

名古屋城：ボーリング調査について

解体现状変更許可

仮設等石垣への影響

支持地盤 荷重が除かれる リバウンド

工学的解析

文化庁「考古学的、工学的検討 総合的に検討をすべき」指摘

もとにしているデータ 本丸御殿のボーリング調査

西南隅櫓横

精度を高めるため天守直下のボーリング調査をしたい

リバウンド、地震時挙動 構造部 ケーソン基礎が石垣に及ぼす影響

地震時工学的解析 地震波

木造耐震解析にも使う

大天守 3 本、小天守 2 本

①, ② ケーソンを外したところ、

- ③ ケーソン
①90メートル
②45メートル
③45メートル
④60メートル
⑤20メートル

11:54

瀬口：質問意見

小濱：天守の耐震性の検討

ボーリング地層調査は必要

これは天守を解体する前のボーリング調査

ケーソン内部ボーリング コンクリートが詰まっている？

工事の仕方

名古屋城：大天守 コンクリート中詰め

小天守 おそらくケーソン内部 PC板

おそらく空洞？確認を含めてやりたい

瀬口：③はケーソン中

名古屋城：そこを確認するため確認

瀬口：コンクリートが詰まっている

名古屋城：そう

小濱：コンクリートを抜くのは大変

ケーソン中はコンクリートが詰まっている？かなりの重さ

中は空洞か？

名古屋城：図面は中詰めコンクリート

小濱：ケーソン下部必要か？

推定できるか？

抜くのは必要か？

名古屋城：②土質採取

③で標準貫入試験

小濱：②でできるでは？

必ずケーソンを打ち抜く必要があるか

空洞であれば大した仕事ではない

大変な作業だと思う

名古屋城：ボーリングの順番 ①から

次②

必要がなければ③とりやめ

瀬口：天守台地盤が場所によって違うという想定か？

名古屋城：周囲を緩めて沈めた

③で直下を調べたい

小濱：底面 下は乱してないでしょう？

同じように考えてよいのでは？

①②でよいのでは

③はやめてもよいと思う

名古屋城：①②で必要なデータが得られれば③はやめたい

藤井：主な内容 ケーソンの内部 知る必要があればやる必要

なければやめたらよい

名古屋城：天守台埋まっているケーソン

地震時にどう動くか

石垣に与える影響

図面上はコンクリートが詰まっている

実際どうなっているかを確認したい

丸山：地下水脈はどうなっているのか

名古屋城：正確な数字は持っていない

自由水面 確実にある
はっきりした数字がない

丸山：地山を知りたい

外部のところボーリング
90メートル必要か？
岩盤 ここで確認できれば

名古屋城：通常の支持地盤ではなく、地震波確認したい

マイナス 55 メートル

丸山：地震ということならわかった

地下水脈が気になる

瀬口：工学的視点

考古学的視点でどうなるか

名古屋城：内堀 軽量盛り土で埋め戻す

重量物を乗せる
石垣にどう影響があるのか
工学的解析 想定している遺構面の深さ
仮定で計算している
違いがないのか 考古学的

瀬口：聞き逃した

名古屋城：遺構面の深さ 1メートルという仮定で計算

浅いのか深いのか
どこにあるのかは考古学的調査

瀬口：どれにあたるのか

名古屋城：今回のボーリング調査ではない

文化庁 考古学的調査で評価

前に出していたのが離れている位置でのデータ

瀬口：工学的調査

石垣部会でやるのは違う気がする

工学の専門家がいないと

ボーリングがどうか 工学専門家 複数に検討しないと

ここの議題についても、次回出してもらう

工学的検討

小濱：ケーソン 昭和に作られた

図面はどの程度残っているのか

名古屋城：設計図書が残っている 書かれている

小濱：ケーソンの詳細は書かれているのか

コンクリートだけか、鉄骨入っているのか

名古屋城：断面図

「中詰めコンクリート」それ以上わからない

小濱：残された図面だけではわからないということか

耐震 工学的解析 地盤の地層構成がわからないと基盤

地層がわからないとだめ

90メートルが適切かわからない

工学的基盤

天守台 工学的モデル化 ケーソンをどうモデル化

石垣に囲まれているケーソン 情報があるか

はっきりして

瀬口：次回に出して

全体通して

佐治所長：ボーリング 石垣部会におろしてと考えていた

瀬口：工学の専門家がいる

全体会議でどうするか検討する

3については要注意

1, 2については準備を進める

佐治：木造復元基礎構造

再度検討 全体に示したい

検討したい 早い段階で調整会議の設置を認めて

それを全体に戻しては

瀬口：次回の検討会議はいつか？

佐治：1か月先

瀬口：今のままでは難しい

佐治：設置を認めていただければ進めたい

瀬口：調整会議は設置する方向で

未成熟 調べて

次回ここです承してスタート

鈴木整備室長：お時間

名古屋城：金シャチ

9月16日 金シャチ活用活性化

おろして活用しては

来春にも金シャチの雄姿を見てもらえれば

金シャチ展示 魅力を知ってもらえれば

景観の変更 現状変更許可が必要

鈴木整備室長：終わる